



## スペイン語へのいざない

(2006年3月東京大学新聞に掲載されたものです)

斎藤文子 (スペイン語部会／スペイン・ラテンアメリカ文學)

みなさんの先輩がどういう基準でスペイン語を選んだのかをお教えします。数年前、基礎演習という授業(文系必修科目)で、学生のTさんが、一年生のおもに文系のスペイン語履修者を対象にアンケート調査した結果です。スペイン語を選択した理由の上位四つは、1、学びやすい言語だと聞いた、2、ラテンのノリが好きだから、3、スペイン語そのものへの興味、4、使用圏の広さ・将来性、でした。

若干のコメントを。1について、文法は規則的、体系的です。動詞の活用の多さに最初は戸惑うかもしれませんが、夏学期をすぎれば楽になります(たぶん)。母音が日本語とほぼ同じで、だいたいローマ字風に読んでいけばよいので、すぐに文章が読めるようになります(意味はともかく)。2、ノリというのはサッカーと音楽からくるのか? スペイン・ラテンアメリカの世界はじつはとても奥深いのだということをぜひ知ってほしい。3と4について、公用語としているのは20カ国、母語人口は中国語、ヒンディー語について世界第三位、使用人口は三億五千万人。アメリカ合衆国では将来スペイン語話者が人口の四分の一になるという予測もあります。一方スペイン語圏のラテンアメリカ諸国から約7万人が日本に働きにきていて、主要駅のキオスクには日本発行のスペイン語新聞もあります。

スペイン語圏の人は人なつっこいです。片言でもあなたの世界は大きく広がることでしょう。今年度から教科書を改訂しました。ホームページも一新し、授業とより連結したものになり、みなさんの学習を全面的に応援します。

四月にお目にかかりましょう。¡Hasta pronto!

